教育研究業績書

2025年05月07日

所属： スポーツマネジメント学科　　資格： 教授　　氏名： 中村　哲士

研究分野	研究内容のキーワード
レジャー・レクリエーション学　スポーツ社会学　野外教育学	レジャー、レクリエーション、生涯スポーツ、野外活動、スポーツ産業
学位	最終学歴
体育学修士	日本体育大学大学院 体育学研究科 社会体育学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.授業内容のプリント化と実践型授業	2011年	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ論、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導法演習・実習を担当した。授業内容プリント化の実践に加え、昨年から、授業3回に1回の割合で試験を実施し、予習・復習を促している。
2.授業内容のプリント化と実践型授業	2010年	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ論、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導法演習・実習を担当した。授業内容プリント化の実践に加え、昨年から、授業3回に1回の割合で試験を実施し、予習・復習を促している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.スポーツ・レクリエーション指導者	2018年2月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会公認スポーツ・レクリエーション指導者養成課程認定校養成課程主任教員としてレクを冠する科目担当
2.日本ソフトボール協会初級指導者	1995年12月	学友会ソフトボール部指導
3.準中級レクリエーション・インストラクター	1991年10月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター養成課程認定校養成課程主任教員としてレクを冠する科目担当
4.高等学校教諭一級普通免許（保健体育）	1983年3月	保健体育指導、保健体育教員指導
5.体育学修士	1983年3月	
6.日本キャンプ協会初級指導者	1981年6月	キャンプ実習指導
7.中学校教諭一級普通免許（保健体育）	1981年3月	保健体育指導、保健体育教員指導
8.全日本スキー連盟１級	1979年2月	スノースポーツ実習指導
9.日本赤十字社救急法救急員	1978年7月	授業時の救急処置
10.講道館柔道初段	1978年7月	武道指導
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.野外教育　自然活動の計画と指導	共	1986年04月	株式会社　遊戯社　大出一水著	大出一水，井筒次郎，中村哲士 担当p246-254,p255-264 客観テストを用いてキャンプ効果を解明しようとする研究（前半）と、望ましいプログラムの一般化を試みようとする研究（後半）を担当した。小学生では男女ともに社会的技術・統率性・社会適応に、中学生では男子に自己統制・社会適応・家庭観系に効果と効果の持続性が観察された。評価を向上させるプログラムとは、自然との接触を伴う身体活動プログラム、自主的に運営される指導力が強調されないプログラムが挙げられた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1.都道府県教育委員会における社会体育行政に関する一研究－特に組織を中心として－	単	1983年03月	日本体育大学大学院　体育学研究科　修士論文	県レベルの社会体育行政がより効果的に機能していくための組織・方策を検討する目的で実施した。組織の形態は簡素なほど機能しやすい傾向にあり、どの県も市町村との間の連絡調整や任務の限界把握に対しての曖昧性が指摘された。また、県段階における社会体育専門員も設置率は十分といえず、その養成強化も要求された。県段階の任務を軽減し、特に立ち遅れが指摘される施設面の連絡調整強化や基盤整備の集中実施が望まれた。
3 学術論文				
1.体育系女子大学におけるキャンプ実習の効果に影響を与える普遍要素の探求	共	2012年12月	健康運動科学　第3巻　（審査あり）	中村哲士，小柳好生，保井俊英 体育系大学における指導者養成としての授業「キャンプ実習」が如何にあるべきかを、一形態の実習10年分のデータを用い実習前後の意識変化と自己達成度の評価から検討した。自己評価による達成度構成要因としては、「積極性と適応」「民主と公平」「触発と参加意欲」「健康状態」が抽出され、自然・野外活動・共同生活の3分野に対して共通に強い説明力を有す因子は「積極性と適応」と「触発と参加意欲」であった。
2.一体育系女子大学における設置科目と取得可能資格に対する学生ニーズの年次変化	共	2012年12月	健康運動科学　第3巻　（審査有り）	中村哲士，小柳好生，松本裕史，三井正也 一体育系女子大学における専門科目と資格に対する学生ニーズの年次変化を分析し、教育内容の検討と学生援助に関する資料を得ることを目的に本研究を計画した。学習や資格取得への意欲に大きな変動はなく、入学後早期に学ぶべき科目や取るべき資格を決定づけている傾向がうかがえた。学習意欲の高い専門科目と資格取得に係る科目とに関連性が見られなかったことから、両者を分けて考えていることも示唆された。
3.健康・スポーツ科学科の科目と資格に対する学生ニーズの年次推移	共	2012年03月	武庫川女子大学紀要　人文社会学編　59巻	中村哲士，小柳好生，松本裕史，三井正也 今回の分析においても、「中高教員免許」の取得と、全般的な資格取得を重視する傾向は維持されていた。2年次における健康系・社会系の科目や資格への興味変化、3年次における支援・貢献系の科目や資格への興味変化のあることが明らかとされ、3年次になって科目や資格取得に対する選択性はより強くなっていることが推察された。当該年の開講科目や進路希望の変化との関連を視座に入れた4年目の追跡調査が必要不可欠である。
4.体育系女子大学生におけるニュースポーツの分類と位置づけ	単	2011年10月	健康運動科学　第2巻第1号　（審査有り）	ニュースポーツ種目の分類・位置づけと，指導現場で使用することの可能性，およびその可能性に影響を与える要素について論じた。種目は(1)活動の広範囲な部分で積極的に活用しようとする種目群，(2)指導場面における使用の可能性は高いが自身の活用・向上意思はない種目群，(3)活用することに消極的な種目群に分類された。指導現場で使用することの可能性に影響を与える要素は，「技術」「実用性」「運動量」が考えられた。
5.体育系学科におけるニュースポーツの授業導入と学生の志向	単	2011年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　58巻	生活化、講習会参加、指導への貢献量に影響を及ぼす要素を明らかにすることを目的とした。結果、生活化はどのグループや種目においても低い、会などへの参加はほとんどの学生がその必要性を感じていない、競技を継続し多くの指導方法を学んでいる学生は競技性の高い就職先をイメージしている、競技は継続していないが多くの指導方法を学んでいる学生は健康・レクリエーション関連の就職先をイメージしている、傾向にあった。
6.体育系女子大学生の科目と資格に対するニーズ変化	共	2011年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　58巻	中村哲士，小柳好生，松本裕史，三井正也 学年進行による専門科目と取得可能な資格に対する意識の違いを分析した。結果、栄養、医学、コーチング系の科目は学びの重要な科目として位置づけている、健康や社会など競技色の薄い科目への興味が急増する、設置資格のどの資格についても取得を重要としている、「教員免許」取得を重視する傾向に変化はない、健康系資格に対する取得希望が急増している、学生は選択的に資格取得を目指している、ことが明らかとなった。
7.キャンプ実習参加者における満足感構成要因の年度間比較	単	2010年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　57巻	感情や意識変化に有効に作用する普遍要素の検討を行った。1）満足感構成要因は「積極性と適応」「民主と公平」「触発と参加意欲」「健康状態」が抽出された。2）好意傾向は、実習後が有意に高く、分析の従属変数とした。3）好意傾向向上に強い説明力を有する因子は「積極性と適応」「触発と参加意欲」であった。4）好意傾向向上

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				に影響するのは、相互指導の便益性と日程日課・プログラム内容の妥当性であった。
8.健康・スポーツ科学科の科目と資格に対する学生ニーズ	共	2010年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　57巻	中村哲士，坂井和明，松本裕史，田中繁宏，濱屋桃子，田中繁宏 本学科における専門科目と取得可能資格に対する学年間に存在する意識の違いを分析した。結果、1）栄養、医学、コーチング系の科目を学びの重要科目としている。2）大学は教職への志向が強く、短大はフィットネス関連企業への就職志向が強い。3）資格取得は重要と考えており、特に「教員免許」はとても重要と考えている。4）健康系資格と競技系資格では個人により選択的に取得する傾向が強い。が明らかとなった
9.女子中学生バレーボール選手の外傷・障害に関するアンケート調査	共	2009年03月	関西臨床スポーツ医・科学研究会誌　Vol.18　（審査有り）	田中繁宏,山本彩未,相澤徹,目連淳司,三井正也,中村哲士,保井俊英,北島見江,伊達萬里子 競技能力別に外傷・障害の発生に違いがあるのかを知る目的でユースクラス女子バレーボール選手と一般の女子中学生バレーボール選手でアンケート調査を実施した。ユースクラスと一般の両群間に外傷・障害の既往の差は認められなかった。受傷部位に関しては、足間接、手指、膝の順で外傷・障害が多かった。
10.ＧＥＲ合併の喘息で加療を受けていた症例に関する一考察	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　自然科学編　56巻	田中繁宏，中村哲士，中西匠，山下絵里，岡本美穂，高村竜一郎，太田剛弘，相澤徹，伊達萬里子，樫塚正一 ＧＥＲと喘息の因果関係は、依然としてはっきりとしていない実情がある。今回は、我々が経験した症例の提示と、最近の報告例とをあわせ考察するものである。ＧＥＲ関連喘息で年齢が如何に関わっているのかの研究が、治療や原因解明に重要だと考えられた。さらに、今後は、年齢に加え、民族特異性なども含めた検討が必要である。
11.最近の成人麻疹感染症に関する一考察	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　自然科学編　56巻	田中繁宏，濱屋桃子，村川増代，山本彩未，中西匠，中村哲士，伊達萬里子，永田隆子，相澤徹，樫塚正一 先行研究、メディア、厚生労働省感染センターなどの情報をもとに、麻疹に関する近年の状況把握を行うことを研究目的とした。麻疹ワクチン接種は2回以上でほぼ100%抗体産生されるようであるが、わが国の2008年度の接種率は満足な数値とは言えず、局所流行の可能性が危惧される。現時点の対処方法は、発症状況に即した判断が必要とされる。
12.レクリエーション実技種目におけるニュースポーツ種目の導入と学生の志向性に関する研究　－健康・スポーツ科学科の学生を対象とした基礎検討－	単	2009年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　56巻	ニュースポーツの経験、意味理解、技術、指導力について、授業後の、学生志向を明らかにするために実施した。志向性に影響を与える種目特性は、①比較的少人数で出来ること、②大きな力を必要としないこと、③移動範囲が少なく小スペースで行えること、④用具が大がかりでないこと、⑤全員の運動量が比較的高く確保できること、⑥奥が深く継続性が期待できること、⑦適度な競技性を有すること、等であった。
13.健康・スポーツ科学科のキャンプ実習から得られる実行力と指導力	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　56巻	中村哲士，保井俊英 今回の研究は、実習の評価で最も重要な実践力養成に関わる「実行力・指導力の獲得」の部分について、４年間の研究成果を対等な位置関係で比較検討しなおすことを主眼に置き実施した。「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」については、実行力と同様に、指導力も獲得されている「登山」「スポーツ活動」「キャンプファイヤー」は、理解しやすく、実行力の獲得しやすいプログラムである。
14.授業「キャンプ実習」に関する研究（4）　－4ヶ年の基礎研究と総合評価－	共	2008年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　55巻	中村哲士，保井俊英，會田宏，小柳好生，中西匠，永田隆子，田中繁宏，西坂珠美，松岡紗也香，野老稔 ４ヶ年の比較と総合評価をおこなった。目標は、各実習に存在する最大公約数の解明である。1.実習への取り組み方に学年差が生じた。2.自覚せねばならぬ一様性の検討と時間確保が課題とされた。3.因子分析は、「相互指導と配慮」「公平と民主」「触発と参加意欲」「積極的な協力と工夫」「楽しさの共有」「自己管理と健康状態」の６要因を抽出した。4.天候による影響をコントロールする困難性が顕在化した。
15.授業「キャンプ実	共	2007年03月	武庫川女子大学紀	中村哲士，保井俊英，會田宏，小柳好生，松本裕史，田中繁宏，四

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
習」に関する研究（3）　－3ヶ年の基礎研究比較と総合評価－			要　人文・社会科学編　54巻	元美帆，西坂珠美，野老稔 ３ヶ年の比較と総合評価をおこなった。目標は、各実習に存在する最大公約数の解明である。1.基礎の習得と能力の向上の２面性がうかがえた。2.自覚せねばならぬ一様性の検討が新課題とされた。3.時間確保も新課題とされた。4.因子分析は、「相互指導と配慮」「担当プログラムと満足感」「触発と参加意欲」「自己の健康状態と安定」「活動量の適切さ」「プログラム指導と不安」の６要因を抽出した。5.社会性に好影響を及ぼしていた。
16.授業「キャンプ実習」に関する研究（2）　－2ヶ年の基礎研究比較－	共	2006年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　53巻	中村哲士，保井俊英，會田宏，小柳好生，田中繁宏，永戸久美，四元美帆，野老稔 ２ヶ年の基礎的資料収集による比較検討を実施した。目標は、２ヶ年の最大公約数の解明である。結果から以下のことが言えた。1.事前教育の必要性。2.環境適応能力の一様性、実習直前の期待度の高さが観察された。3.各プログラムの運営・指導不足。4.因子分析の結果、実習成否の鍵が明らかとなった。5.昨年の「本実習のスタイルでは自然に対する理解や好意に関する面への効用は期待できない」とする一見解は、否定された。
17.授業「キャンプ実習」に関する研究（１）　－参加者の意識・行動・学習・達成レベルの基礎的検討－	共	2005年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　52巻	中村哲士，保井俊英，會田宏，小柳好生，田中繁宏，永戸久美，四元美帆，野老稔 学生の実行・指導力に、現在の実施方法がどの程度の貢献量をもつものかの基礎的資料を得ることを目標とし、以下の結果を得た。1.高い達成レベルを要求する事前教育の必要性。2.事前学習を享受する姿勢。3.体験増量と知識拡幅の方法解明。4.満足・達成感構成６因子「安定と安心」「交流と相互指導」「積極性と達成欲」「触発と参加意欲」「健康状態」「集団生活への適応」の存在。5.自然・野外活動・協同活動に関する効果の存在。
18.レジャー、レクリェーションという言葉に対する意識―短大健康・スポーツ学科生涯スポーツコース専攻学生を中心とした検討―	単	2004年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　51巻	レクリェーション・インストラクター資格取得コースを専攻する学生を対象に進めたレジャー、レクリェーションに関する意識変化の分析の結果、レジャーはあくまで余暇活動そのもの、あるいは余暇活動全般をさすものとして、また、レクリェーションは有意義で創造的な活動として、はっきりと分けて捉えていることが判明した。共通して言えることは、時間的概念で捉えるよりも活動的概念で捉える傾向が強く、人生におけるプラスの方向に意識されていることがわかった。
19.授業「スキー実習」に関する研究Ⅲ	共	2001年05月	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート　26号	中村哲士，野老稔，二宮恒夫，會田宏 実習を担当するどの教員が一学生を評価しても、限りなく一致した評価を下せる方法を導き出すことと、それを強化するためのトレーニング方法の開発を目的とし、「指導を担当する教員の評価順位が一致するならば、ある視点や基準を設定し、認識して評価に入れば限りなく評価点は近似するはずだ。」という仮説の証明を課題に、今回の研究を企画した。実習を担当する教員の経験からくる評価能力は、本人の技術能力や指導経験量に関わらず高いといえ、より実際的な評価基準に関する打ち合わせの実施を提案した。担当（pp.145～182）
20.スキー実習における初心者の技術評価	単	2001年03月	武庫川女子大学教育研究所　レポート　26号	実習を担当するどの教員が一学生を評価しても、限りなく一致した評価を下せる方法を導き出すことと、それを強化するためのトレーニング方法の開発を目的とし、「指導を担当する教員の評価順位が一致するならば、ある視点や基準を設定し、認識して評価に入れば限りなく評価点は近似するはずだ。」という仮説の証明を課題に、今回の研究を企画した。実習を担当する教員の経験からくる評価能力は、本人の技術能力や指導経験量に関わらず高いといえ、より実際的な評価基準に関する打ち合わせの実施を提案した。担当（pp.160～172）
21.スキーの初心者におけるストックワークの指導	共	2000年03月	武庫川大学教育研究所レポート　24号	中村哲士，中西匠 スキー初心者指導のストックワーク指導の位置づけと具体的な方法論を明らかにすること、スキー技術のビデオ評価の可能性を探ることを研究課題とした。ストックワーク指導の早すぎる導入は、技術向上遅延や一時的技術混乱を招く可能性が高く、板の操作に余裕が持てるようになった上で、導入することが望ましいと結論した。ビ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				デオによる技術評価は、個体評価順位の一致や複数の第三者評価の一致から、可能であると推論した。担当（pp. 83～95）
22.社会体育コース専攻女子短大生のクラブ活動所属要因－スポーツ行動診断検査からの分析－	単	1998年11月	武庫川女子大学文学部五十周年記念論文集	社会体育コースを専攻する女子短大生の運動系クラブ所属に関与する要因について、スポーツ行動診断検査による分析を中心に検討した。快感情や体格については近年向上がみられるが、判断・評価・行為などに対する自己基準、他人への依存、人生設計、生活満足指標等の低下が、結果として捉えられた。意識は高いが行動が少ない、あるいは意識も行動も水準が近い者が、近年増加していることが判明し、クラブ所属の決定に影響を与えていた。
23.体育学科スキー実習と学友会スキーの学生評価比較	共	1998年11月	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート　21号	中村哲士，野老稔，會田宏，中西匠，水田英男 スキー実習研究の真価を検討することと、授業評価の観点をより客観化できるような基礎的資料の充実を目的に実施した。スキー実習は技術向上を主目的に、学友会スキーは人的交流を主目的に学生は参加意志を決定している。また、両実習ともに、「ゲレンデ講習での指導」「仲間との交流」「実習からの触発・参加意欲」が、満足感を構成する因子として抽出され、充実した実習を行なうための重要ポイントと判断した。
24.体育学科スキー実習と学友会スキーの学生評価（２）－満足感を構成する要因の比較－	共	1998年09月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　46巻	中村哲士，會田宏，野老稔，中西匠，水田英男 スキー実習と学友会スキーを、満足感の構成要因と満足感に影響を及ぼす要因について、會田らの研究を土台に比較検討することを主命題とし、授業評価の観点をより客観化できるような基礎的資料の充実を目的に実施した。比較から、両実習ともに実習を行なううえで最も重要な満足感を構成する因子は、「ゲレンデ講習での指導」「仲間との交流」「実習からの触発・参加意欲」の３因子であり、実習を行なううえで重要ポイントと予測した。担当（pp.73～81）
25.体育学科スキー実習と学友会スキーの学生評価（１）－動機・期待・満足感の比較－	共	1998年09月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　46巻	中村哲士，野老稔，中西匠，會田宏，水田英男 スキー実習に対する動機・期待・触発・満足感などの総体的評価を、学友会スキーを対照群に、その研究の真価を検証することを命題に第一報を構成した。いずれの評価もスキー実習側が有意に上回る傾向を示し、スキー実習参加者はスキー自体を楽しみたいとする直接的動機を、また、学友会スキー参加者は、スキーというスポーツを介した人的交流によってその期間を楽しみたいという動機を強く有することが明らかとなった。担当（pp.65～72）
26.地域スポーツ教室の参加者の動向（２）－テニス教室の参加者について－	共	1998年03月	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編 45巻	足立長彦，中村哲士，土合久男 地域スポーツ教室で開催しているテニス教室参加者の参加状況、継続性とその問題点、指導内容への希望等を明らかにすることから、生涯スポーツとしてのテニス指導プログラムの充実・発展を図ろうとするものであった。結果は、技術向上に満足し、継続の希望を有するものが多く、半年以上経験した者はゲーム形式の練習を好んでいた。長期の継続率は女性より男性のほうが高かった。継続上最も問題とされたのは、コートの確保であった。
27.社会体育コース専攻学生のマーケティングとカリキュラム（３）－希望就職先と自己評価－	単	1998年03月	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編 45巻	一連の研究の第３段階である今回の研究は、希望就職先別に分類し、希望者・非希望者の意識・行動・評価について分析及び整理を行い、大学における指導者養成課程のあり方について検討した。結果は、希望者・就職者の双方とも、在学中の自己能力の向上に対する強い姿勢が感じられ、個人情報の収集等については自助努力面が強調された。また、養成課程に対しては、現場における運営・管理面の能力向上関連科目の不備が指摘された。
28.地域スポーツ教室の参加者の動向	共	1997年03月	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編 44巻	足立長彦・中村哲士・土合久男 スポーツ振興事業団が工業都市において主催するスポーツ教室を対象に、市民スポーツ振興のために必要な提供者側の施設・プログラムのあり方を、参加者の現状、動機、継続性、動向から分析した。結果は、参加に影響を与えるものは、過去のスポーツ経験が最も大きく、次いで広報紙のあり方、施設への利便性の順で高いことが明らかとされた。運動不足の女性参加者が多く、男性に対するプログラムが希薄である傾向がうかがえた。
29.社会体育コース専攻学生のマーケティングとカリキュラム	単	1997年03月	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編 44巻	一連の研究の第２段階である今回の研究は、卒業生の動向、知識、技術、能力、養成課程への意見等を中心に、在学生との間に存在する能力や意識の格差を計り、養成課程に内在する問題点を把握・検

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
（２）－卒業生の自己評価と行動からの分析－				討しようとするものであった。結果は、養成課程の整備状況等前回の研究における指摘はほぼ指示されたが、就職ということへの認識度や行動力はかなり低い傾向にあり、科目外においても学生サービス型の対応が要求されていることがわかった。
30.社会体育コース専攻学生のマーケティングとカリキュラム（１）－在学生の自己評価と心理的要因－	単	1996年03月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　43巻	在学生、卒業生、雇用者のそれぞれを対象とする一連の研究の第一段階として、在学生の意識・行動・学習レベルと養成課程に焦点をあて、在学生レベルにおいて要求される養成課程の把握と、専門コースのカリキュラム及び対応についての評価を行ない、養成課程充実のための可能性の検討を行なった。結果は、就職後は引き続き要求されるであろう自己能力開発部分の方法論と指導実践に関わる現場実習の不足が指摘された。
31.キャンプ期間の延長が子どもの個人的・社会的特性に及ぼす影響についての一考察　－夏休み健康村を事例として－	共	1987年06月	日本体育大学紀要第17巻１号	馬場進一郎，井筒次郎，中村哲士，大出一水 キャンプ期間の延長が子どもに及ぼす影響について、変容の程度とその内容、次年度参加希望を中心に、延長前と後の同一資料結果の間で検討を加えた。男女双方に忍耐力が、加えて男子にリーダーシップや外交的性格が、女子に自主性が向上していることがわかった。しかし、子どもに楽しいと評価させたものの、興味や期待には、必ずしも好影響を及ぼしたとはいえなかった。
32.工場における健康・体力つくりの効果	共	1985年06月	日本体育大学紀要　第15巻第1号	井筒次郎，中村哲士，嶋谷誠司，上條隆，塩谷宗雄 軽作業職場における健康・体力つくりの方法に関する研究から得られた主観的効果を拠り拠とし、客観的に把握できる資料からの効果を明らかにすることと、養成されたリーダーの機能について検討した。不休度数率、総欠勤日数、医療費月額は大幅に減少し、スポーツ行事参加は3.4倍に延びた。リーダーの機能については他者への働きかけと、改善を促すという点で有意に作用し、主観的効果のみならず客観的な面でも効果が認められた。
33.運動の種目による脊柱偏倚と健康状況	共	1984年03月	日本体育大学助手会研究報告すぽーつ　第3号	中村哲士，朴文煥 運動種目別に脊柱偏奇および健康状況の相違があるのかを明らかにすることを目的とし、有効な運動の実施方法について検討した。相手との接触が頻繁に行なわれる、大きな負荷がかかる、スピードの3要素を含むスポーツ実施者に脊柱偏奇をきたしているものが多く、健康状況も腰痛・胃痛を訴えるものが多い。対象者が長年スポーツに親しんでいるものばかりであったために、特に左右まんべんなく使用するトレーニング方法を提案した。
34.キャンプにおける教育的効果に関する事例研究　－その2－昭和58年度夏休み健康村（針生）報告書	共	1984年03月	日本体育大学助手会研究報告すぽーつ　第3号	井筒次郎，中村哲士，大出一水 キャンプに対する子どもや親の期待と実施後のキャンプに対する親の評価から、その教育的効果について検討を加えた。活動内容は、自然との直接的接触を伴う身体活動を中心に構成すべきであり、指導力の強調されない自主性が生かされる内容が子どもにとって面白いと判断されることが明らかとなった。効果の主な内容は、親の評価から、好奇心が旺盛になり、自主性が身につき、友達ができ、外向的になり、協調性が養われることであった。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.キャンプ期間の延長が子どもに及ぼす影響　－夏休み健康村を事例として－	共	1987年06月	日本体育学会　第38回大会	馬場進一郎，井筒次郎，中村哲士，大出一水 過去３ヶ年の継続調査結果と４ヶ年目の比較から、日程の延長がもたらす影響について検討を加えることを目的とした。一泊一日の期間の延長及び新たに加えられたプログラムは、子どもが良くなった判断する親の回答を男女とも15％～20％程度引き上げ、さらにキャンプに対する満足度を12％～16％程度引き上げることができる。しかし、子どもの次年度に対する参加希望には、影響がないと推察した。
2.工場における健康・体力つくりと活性化の波及効果　その2－スポーツ活動への影響とリーダーの機能	共	1984年10月	日本体育学会　第35回大会	井筒次郎，中村哲士，上條隆，嶋谷誠司，塩谷宗雄，岡本信之 スポーツ活動に対する参加者と工場で設けたトリム賞の受賞者に及ぼした影響、養成されたリーダーの活動状況から健康・体力つくり運動の効果について明らかにするものであった。スポーツ活動の急激な進展、作業中の姿勢やぶらさがりへの留意や回数にも影響を及

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ー				ぼしていると推察され、スポーツ活動と作業中の問題は、リーダー自身の変容とその機能が有効に作用したと考えられ、工場内のリーダー養成は意義があったと推察した。
3.工場における健康・体力つくりと活性化の波及効果　その1－安全面と家庭生活への影響－	共	1984年10月	日本体育学会　第35回大会	岡本信之，上條隆，嶋谷誠司，中村哲士，井筒次郎，塩谷宗雄 職場の活性化から得られる波及効果を具体的に把握するために、安全面、健康保険料収支率、家庭生活面からの影響について検討した。健康・体力つくり運動を継続して実施することにより、従業員個々人が、自己の健康・体力に関心をもつようになり、自らが作業姿勢に気を付け、運動を積極的に取り組み、比較的短時間でその効果が多方面に認められつつあった。このことから前回の研究での指摘を客観的に捉えることができたと判断した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2019年9月～現在	兵庫県立大学教員採用候補者選考委員会委員
2.2017年4月～現在	西宮市公の施設に係る指定管理者選定委員会委員長
3.2009年3月～現在	日本野外教育学会
4.2008年12月～現在	日本レジャー・レクリエーション学会
5.1981年４月～現在	日本体育学会